

『たねいっぱい わらったね』

近藤久美子

アリス館（1999年 発行）



最初のページは「はじけたね！」と今まにはじけ飛ぼうとしている種が。これはすみれの種。次のページからはもう大忙し。あらゆる種類のはじけ飛ぶ種の植物と、はじけた種を巣に運ぼうとしているアリたち、種で遊ぶアリのこどもたちが細かく描か

れています。虫たちのつぶやきも面白いのです。

次の「飛んでったね！」のページでは風にふわふわ飛ばされるタネたち、次の「くるくるまわったね、かぜにのったね、おどったね」ではくるくる舞い降りてくるタネたちで野原はお祭り騒ぎです。リズムに乗って

ページをめくるごとに、種は様々な散らばり方を見せてくれます。

さすがにちょっと落ち着いた表情の「みのったね、たべられたね」のページ。ここに出てくるのは虫よりも鳥たちが多いのです。鳥においしそうに見せるため、どの実もカラフルに装っています。

さて、いろんな経路を経て土に潜った種は、しばらくお休み……。そして春になると目覚めて花開いて、「わらったね！」です。最後のページのなんと華やかで、花も虫もクモも楽しそうなこと！

表紙の見返しにはいろいろな花が、そして裏表紙の見返しにはその花の種が丁寧に描かれています。遊び心満点の本、読むと元気が出てくる本です。 (小川)